

【概 要】

平成23年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（北海道）【速報値】

※ 本調査は、平成23年度間の北海道の公立学校における暴力行為、いじめ、不登校、中途退学の状況を平成24年度に調査し公表するものです。

また、本数値には、札幌市立学校を含んでいます。

■基本となる学校数及び児童生徒数

	公立学校総数		在籍児童生徒数	
	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度
小学校	1,199 校	1,241 校	267,957 人	272,722 人
中学校	652 校	658 校	139,910 人	140,981 人
高等学校	248 校	257 校	111,399 人	114,273 人
小・中・高等学校の計	2,099 校	2,156 校	519,266 人	527,976 人
特別支援学校	62 校	61 校	5,075 人	4,783 人
合 計	2,161 校	2,217 校	524,341 人	532,759 人

※平成23年5月1日現在の数値である。

※いじめにおける高等学校の学校総数については、全定併置校はそれぞれにカウントしており、282校となる。

■結果の概要

1 公立小・中学校、高等学校の暴力行為の発生件数

	平成23年度		平成22年度	
	発生件数	1,000人当たりの発生件数	発生件数	1,000人当たりの発生件数
小学校	44件	0.2	55件	0.2
中学校	1,203件	8.6	1,332件	9.4
高等学校	387件	3.5	424件	3.7
計	1,634件	3.1	1,811件	3.4

- 小学校 ～前年度に比べ、11件減少（55→44）している。
- 中学校 ～前年度に比べ、129件減少（1,332→1,203）している。
- 高等学校 ～前年度に比べ、37件減少（424→387）している。
- 全体 ～前年度に比べ、177件減少（1,811→1,634）している。

2 公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめの認知件数

	平成23年度		平成22年度	
	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
小学校	1,261件	4.7	2,148件	7.9
中学校	1,525件	10.9	1,964件	13.9
高等学校	461件	4.1	528件	4.6
特別支援学校	14件	2.8	10件	2.1
合計	3,261件	6.2	4,650件	8.7

- 小学校 ～前年度に比べ、887件減少（2,148→1,261）している。
- 中学校 ～前年度に比べ、439件減少（1,964→1,525）している。
- 高等学校 ～前年度に比べ、67件減少（528→461）している。
- 特別支援学校 ～前年度に比べ、4件増加（10→14）している。
- 全体 ～前年度に比べ、1,389件減少（4,650→3,261）している。

3 公立小・中学校の不登校児童生徒数

	平成23年度		平成22年度	
	不登校児童生徒数	在籍比	不登校児童生徒数	在籍比
小学校	747人	0.28%	742人	0.27%
中学校	3,254人	2.33%	3,376人	2.39%
計	4,001人	0.98%	4,118人	1.00%

- 小学校 ～前年度に比べ、5人増加（742→747）している。
- 中学校 ～前年度に比べ、122人減少（3,376→3,254）している。
- 全体 ～前年度に比べ、117人減少（4,118→4,001）している。

4 公立高等学校の不登校生徒数

	平成23年度	平成22年度
不登校生徒数	833 人	853 人
在籍比	0.75 %	0.75 %

- 前年度に比べ、20人減少（不登校生徒数 853→833）している。
（在籍比 0.75→0.75）

5 公立高等学校の中途退学者数

	平成23年度	平成22年度
中途退学者数	1,735 人	1,880 人
中途退学率	1.6 %	1.6 %

- 前年度に比べ、145人減少（中途退学者数1,880→1,735）している。
（中途退学率 1.6→1.6）

公立小・中学校、高等学校の暴力行為

○平成21年度より、「暴力行為」については、未然防止、早期発見・早期対応の取組が重要であることから、事案の軽重にかかわらず、調査対象とすることとした。

1 暴力行為の発生件数の推移

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
小学校	21	16	89	55	44
中学校	644	764	1,054	1,332	1,203
高等学校	30	31	344	424	387
計	695	811	1,487	1,811	1,634

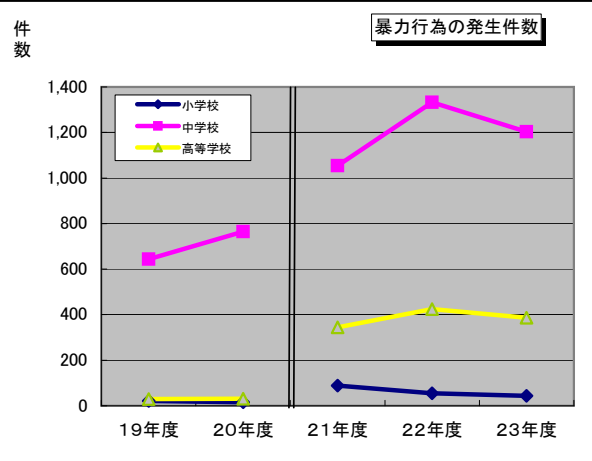
※平成19～20年度は参考

〈経年変化〉

前年度に比べ、全ての校種において減少している。

〈前年度との比較〉

- 小学校 ～前年度に比べ 11件減少している。
- 中学校 ～前年度に比べ 129件減少している。
- 高等学校 ～前年度に比べ 37件減少している。
- 全体 ～前年度に比べ 177件減少している。



2 学校種別暴力行為の発生学校数及び発生件数

		平成23年度			平成22年度		
		発生学校数		発生件数	発生学校数		発生件数
		学校数	発生率		学校数	発生率	
小学校	学校内	14校	1.2%	40件	18校	1.5%	50件
	学校外	4校	0.3%	4件	5校	0.4%	5件
	小計	—	—	44件	—	—	55件
中学校	学校内	127校	19.5%	1,059件	159校	24.2%	1,173件
	学校外	77校	11.8%	144件	92校	14.0%	159件
	小計	—	—	1,203件	—	—	1,332件
高等学校	学校内	122校	49.2%	318件	126校	49.0%	366件
	学校外	43校	17.3%	69件	42校	16.3%	58件
	小計	—	—	387件	—	—	424件
合計	学校内	263校	12.5%	1,417件	303校	14.1%	1,589件
	学校外	124校	5.9%	217件	139校	6.4%	222件
	小計	—	—	1,634件	—	—	1,811件

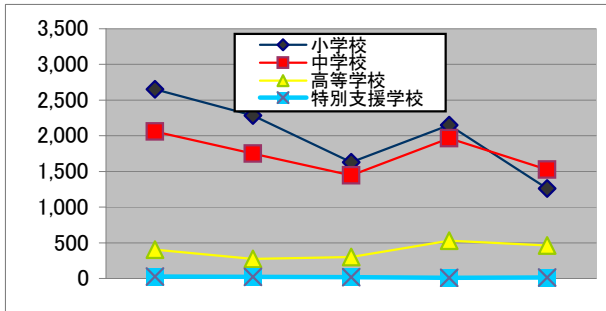
※発生率＝発生学校数／公立学校総数×100

3 暴力行為の種別発生学校数及び発生件数

		平成23年度		平成22年度	
		発生学校数	発生件数	発生学校数	発生件数
対教師暴力	小学校	4校	13件	5校	7件
	中学校	43校	147件	61校	221件
	高等学校	24校	35件	25校	43件
	合計	71校	195件	91校	271件
生徒間暴力	小学校	13校	24件	15校	34件
	中学校	164校	628件	202校	687件
	高等学校	142校	262件	132校	261件
	合計	319校	914件	349校	982件
対人暴力	小学校	1校	1件	1校	1件
	中学校	27校	48件	28校	65件
	高等学校	11校	12件	21校	23件
	合計	39校	61件	50校	89件
器物損壊	小学校	4校	6件	6校	13件
	中学校	75校	380件	89校	359件
	高等学校	46校	78件	51校	97件
	合計	125校	464件	146校	469件

公立小・中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ

1 いじめの認知件数の推移



※ 本調査におけるいじめの定義

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」とする。

なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

〈経年変化〉

いじめの認知件数は、平成19年度以降減少傾向にあったが、22年度は小・中・高等学校において増加、23年度には再び減少した。

〈前年度との比較〉

- 小学校 ~前年度に比べ、887件減少している。
- 中学校 ~前年度に比べ、439件減少している。
- 高等学校 ~前年度に比べ、67件減少している。
- 特別支援学校 ~前年度に比べ、4件増加している。
- 全体 ~前年度に比べ、1,389件減少している。

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
小学校	2,651	2,285	1,627	2,148	1,261
中学校	2,061	1,748	1,444	1,964	1,525
高等学校	404	275	300	528	461
特別支援学校	28	22	19	10	14
計	5,144	4,330	3,390	4,650	3,261

2 学校種別いじめの認知学校数及び認知件数、在籍比

	認知学校数				認知件数		在籍比	
	学校数		認知率		平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度
	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度				
小学校	306校	463校	25.5%	37.3%	1,261件	2,148件	0.47	0.79
中学校	313校	380校	48.0%	57.8%	1,525件	1,964件	1.09	1.39
高等学校	141校	160校	50.0%	54.6%	461件	528件	0.41	0.46
特別支援学校	5校	6校	8.1%	9.8%	14件	10件	0.28	0.21

※ 認知率=認知学校数/公立学校総数×100

3 いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの(解消率)		
	平成23年度	平成22年度	平成21年度
小学校	96.4%	94.0%	95.0%
中学校	92.9%	88.6%	86.8%
高等学校	97.0%	90.0%	93.7%
特別支援学校	71.4%	80.0%	78.9%
計	94.7%	91.2%	91.3%

4 いじめ発見のきっかけ (12項目から一つ選択)

学校種	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成23年度		平成22年度	
小学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	67.6%	アンケート調査など学校の取組により発見	45.0%
	②	学級担任が発見	9.8%	学級担任が発見	20.6%
	③	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	9.1%	本人からの訴え	16.8%
	④	本人からの訴え	6.2%	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	10.6%
	⑤	児童生徒(本人を除く)からの情報	2.6%	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	3.0%
	⑥	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	2.0%	児童生徒(本人を除く)からの情報	2.5%
	⑦	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	1.2%	学級担任以外の教職員が発見	1.0%
	⑧	学級担任以外の教職員が発見	0.8%	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.2%
	⑨	養護教諭が発見	0.2%	養護教諭が発見	0.2%
	⑩	地域の住民からの情報	0.2%	地域の住民からの情報	0.0%
	⑪	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.1%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
	⑫	その他(匿名による投書など)	0.1%	その他(匿名による投書など)	0.0%
中学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	54.6%	アンケート調査など学校の取組により発見	35.4%
	②	本人からの訴え	21.1%	本人からの訴え	25.3%
	③	学級担任が発見	8.7%	学級担任が発見	18.8%
	④	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	6.8%	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	8.8%
	⑤	児童生徒(本人を除く)からの情報	3.1%	学級担任以外の教職員が発見	4.4%
	⑥	学級担任以外の教職員が発見	3.0%	児童生徒(本人を除く)からの情報	4.2%
	⑦	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	2.0%	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	1.8%
	⑧	養護教諭が発見	0.3%	養護教諭が発見	1.0%
	⑨	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.1%	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.2%
	⑩	地域の住民からの情報	0.1%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.1%
	⑪	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0.1%	地域の住民からの情報	0.1%
	⑫	その他(匿名による投書など)	0.0%	その他(匿名による投書など)	0.0%

高等学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	58.8%	アンケート調査など学校の取組により発見	38.1%
	②	本人からの訴え	17.1%	学級担任が発見	24.1%
	③	学級担任が発見	6.7%	本人からの訴え	22.3%
	④	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	6.5%	学級担任以外の教職員が発見	3.8%
	⑤	学級担任以外の教職員が発見	4.6%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	3.8%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	3.3%	児童生徒（本人を除く）からの情報	3.6%
	⑦	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.5%	養護教諭が発見	2.8%
	⑧	養護教諭が発見	0.9%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.1%
	⑨	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.2%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.4%
	⑩	地域の住民からの情報	0.2%	その他（匿名による投書など）	0.0%
特別支援学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見	42.9%	学級担任が発見	30.0%
	②	本人からの訴え	35.7%	学級担任以外の教職員が発見	30.0%
	③	学級担任が発見	14.3%	アンケート調査など学校の取組により発見	20.0%
	④	学級担任以外の教職員が発見	7.1%	本人からの訴え	10.0%
	⑤	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	0.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	10.0%
	⑥	児童生徒（本人を除く）からの情報	0.0%	児童生徒（本人を除く）からの情報	0.0%
	⑦	養護教諭が発見	0.0%	養護教諭が発見	0.0%
	⑧	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
	⑨	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%
	⑩	地域の住民からの情報	0.0%	地域の住民からの情報	0.0%

5 いじめの態様（9項目から複数選択）

学校種		いじめの態様			
		平成23年度	平成22年度		
小学校	①	冷やかしやからかい、悪口や背し文句、嫌なことを言われる	71.6%	冷やかしやからかい、悪口や背し文句、嫌なことを言われる	75.2%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	30.2%	仲間はずれ、集団による無視をされる	19.8%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる	23.8%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	16.2%
	④	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	6.3%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	4.3%
	⑤	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	2.1%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	3.2%
	⑥	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	1.8%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	1.3%
	⑦	その他	1.0%	その他	1.1%
	⑧	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	0.7%	金品をたかられる	0.3%
	⑨	金品をたかられる	0.6%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	0.3%
中学校	①	冷やかしやからかい、悪口や背し文句、嫌なことを言われる	75.1%	冷やかしやからかい、悪口や背し文句、嫌なことを言われる	79.0%
	②	仲間はずれ、集団による無視をされる	16.9%	仲間はずれ、集団による無視をされる	17.1%
	③	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	14.4%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	11.0%
	④	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	5.9%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	5.4%
	⑤	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	5.1%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	4.2%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.0%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	3.7%
	⑦	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	2.2%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	2.1%
	⑧	その他	1.1%	その他	0.9%
	⑨	金品をたかられる	0.3%	金品をたかられる	0.8%
高等学校	①	冷やかしやからかい、悪口や背し文句、嫌なことを言われる	68.8%	冷やかしやからかい、悪口や背し文句、嫌なことを言われる	74.8%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	17.8%	仲間はずれ、集団による無視をされる	17.6%
	③	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	15.6%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	13.4%
	④	仲間はずれ、集団による無視をされる	12.1%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	10.4%
	⑤	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	8.7%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	4.4%
	⑥	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	5.2%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.2%
	⑦	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.3%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	3.2%
	⑧	その他	3.9%	その他	2.1%
	⑨	金品をたかられる	1.7%	金品をたかられる	1.3%
特別支援学校	①	冷やかしやからかい、悪口や背し文句、嫌なことを言われる	64.3%	冷やかしやからかい、悪口や背し文句、嫌なことを言われる	60.0%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	21.4%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	30.0%
	③	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	14.3%	その他	20.0%
	④	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	14.3%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	10.0%
	⑤	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	7.1%	金品をたかられる	10.0%
	⑥	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	7.1%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	0.0%
	⑦	金品をたかられる	0.0%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	0.0%
	⑧	仲間はずれ、集団による無視をされる	0.0%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	0.0%
	⑨	その他	0.0%	仲間はずれ、集団による無視をされる	0.0%

公立小・中学校の不登校

1 不登校児童生徒数(公立小・中学校)

	平成23年度		平成22年度	
小学校	747人	0.28%	742人	0.27%
中学校	3,254人	2.33%	3,376人	2.39%
計	4,001人	0.98%	4,118人	1.00%

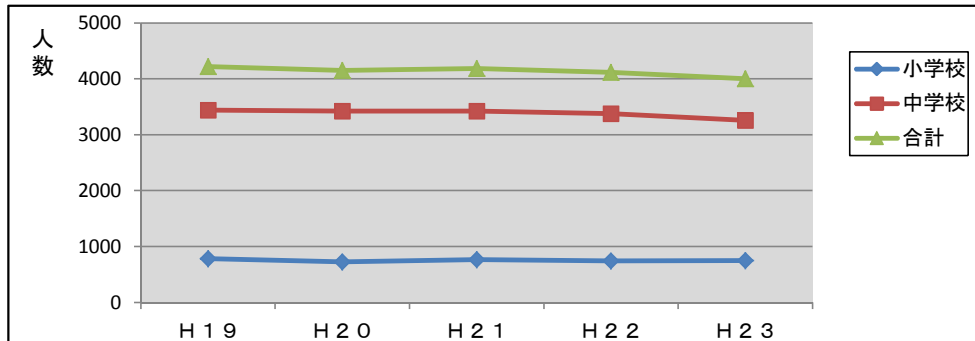
※年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数
 ※「%」は在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合

- 小学校 ~昨年度に比べ、5人増加(742→747)している。
- 中学校 ~昨年度に比べ、122人減少(3,376→3,254)している。
- 全体 ~昨年度に比べ、117人減少(4,118→4,001)している。

2 不登校の経年変化

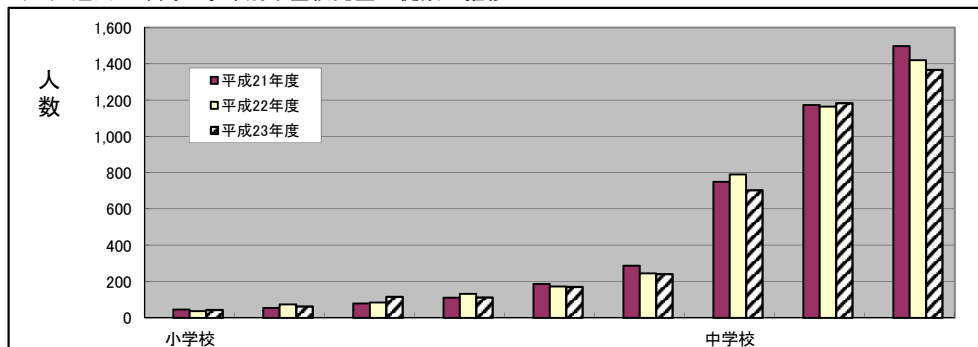
(1) 平成19年度以降の不登校の状況

年度間に通算30日以上欠席児童生徒のうち不登校を理由とする児童生徒数の推移



	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
小学校	780	726	763	742	747
(在籍比)	0.27%	0.26%	0.28%	0.27%	0.28%
中学校	3,437	3,424	3,421	3,376	3,254
(在籍比)	2.30%	2.35%	2.37%	2.39%	2.33%
合計	4,217	4,150	4,184	4,118	4,001
(在籍比)	0.97%	0.97%	0.99%	1.00%	0.98%

(2) 過去3年間の学年別不登校児童生徒数の推移



学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
平成21年度	46	54	79	110	187	287	750	1,173	1,498
平成22年度	36	74	84	131	173	244	791	1,164	1,421
平成23年度	43	63	116	113	171	241	703	1,184	1,367

3 不登校となったきっかけと考えられる状況（19項目から考えられるもの全て選び回答）

学校	順位	不登校となったきっかけと考えられる状況					
		平成23年度		平成22年度			
小学校	①	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	34.0%	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	29.1%
	②	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	21.4%	本人に係る状況	無気力	21.8%
	③	本人に係る状況	無気力	21.2%	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	20.6%
	④	本人に係る状況	病気による欠席	14.1%	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	13.1%
	⑤	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	12.4%	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	12.1%
	⑥	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	11.2%	本人に係る状況	病気による欠席	9.8%
	⑦		その他	10.3%	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	7.7%
	⑧	本人に係る状況	意図的な拒否	7.6%	その他		6.9%
	⑨	学校に係る状況	学業の不振	5.8%	学校に係る状況	学業の不振	5.5%
	⑩	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	5.0%	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	4.7%
	⑪	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	4.8%	本人に係る状況	意図的な拒否	4.6%
	⑫	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	3.7%	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	4.0%
	⑬	家庭に係る状況	家庭内の不和	3.6%	家庭に係る状況	家庭内の不和	3.8%
	⑭		不明	2.3%	不明		3.0%
	⑮	学校に係る状況	いじめ	1.3%	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	1.8%
	⑯	本人に係る状況	あそび・非行	1.1%	学校に係る状況	いじめ	1.1%
	⑰	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	0.7%	本人に係る状況	あそび・非行	0.4%
	⑱	学校に係る状況	進路にかかる不安	0.4%	学校に係る状況	進路にかかる不安	0.1%
	⑲	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	0.1%	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	0.1%
中学校	①	本人に係る状況	無気力	30.2%	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	23.8%
	②	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	26.8%	本人に係る状況	無気力	23.6%
	③	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	17.1%	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	16.1%
	④	本人に係る状況	病気による欠席	10.4%	本人に係る状況	病気による欠席	8.6%
	⑤	学校に係る状況	学業の不振	9.7%	本人に係る状況	あそび・非行	8.1%
	⑥	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	9.6%	学校に係る状況	学業の不振	8.0%
	⑦	本人に係る状況	あそび・非行	9.2%	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	6.4%
	⑧	本人に係る状況	意図的な拒否	5.8%	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	5.0%
	⑨	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	5.7%	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	4.9%
	⑩	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	3.9%	本人に係る状況	意図的な拒否	4.6%
	⑪	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	3.0%	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.9%
	⑫	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.7%	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	2.3%
	⑬	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	2.4%	不明		2.3%
	⑭		その他	2.2%	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	2.0%
	⑮	学校に係る状況	いじめ	1.7%	学校に係る状況	いじめ	1.8%
	⑯	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	1.6%	その他		1.3%
	⑰	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	1.3%	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	1.2%
	⑱	学校に係る状況	進路にかかる不安	1.2%	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等への不適応	1.2%
⑲		不明	1.2%	学校に係る状況	進路にかかる不安	0.7%	

4 不登校児童生徒への指導結果状況

	小学校				中学校				計			
	人数		不登校児童に対する比率		人数		不登校生徒に対する比率		人数		不登校児童生徒に対する比率	
	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	247人	267人	33.1%	36.0%	897人	1,087人	27.6%	32.2%	1,144人	1,354人	28.6%	32.9%
指導中の児童生徒	500人	475人	66.9%	64.0%	2,357人	2,289人	72.4%	67.8%	2,857人	2,764人	71.4%	67.1%
うち登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	140人	276人	18.7%	37.2%	577人	620人	17.7%	18.4%	717人	896人	17.9%	21.8%
計	747人	742人			3,254人	3,376人			4,001人	4,118人		

5 「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置

順位	効果があった学校の措置
小学校	① 登校を促すため、電話をかけた後迎えに行くなどした。
	② 家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
	③ 不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。
	④ 全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導にあたった。
	⑤ 保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	⑥ 教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。
	⑦ 様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。
	⑧ 保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。
	⑨ 授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。
	⑩ 教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。
	⑪ スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった。
	⑫ 友人関係を改善するための指導を行った。
	⑬ 教育相談担当の教師が専門的に指導にあたった。
	⑭ 養護教諭が専門的に指導にあたった。
	⑮ 病院等の医療機関と連携して指導にあたった。
	⑯ その他
中学校	① 家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
	② 登校を促すため、電話をかけた後迎えに行くなどした。
	③ 不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。
	④ 保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	⑤ 全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導にあたった。
	⑥ スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった。
	⑦ 保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。
	⑧ 教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。
	⑨ 様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。
	⑩ 友人関係を改善するための指導を行った。
	⑪ 教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。
	⑫ 養護教諭が専門的に指導にあたった。
	⑬ 授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。
	⑭ 教育相談担当の教師が専門的に指導にあたった。
	⑮ 病院等の医療機関と連携して指導にあたった。
	⑯ その他

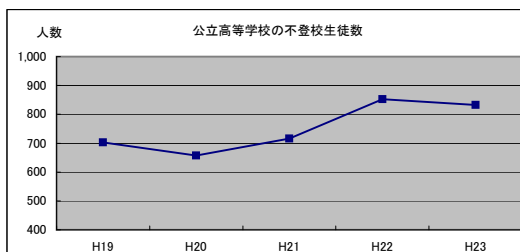
公立高等学校の不登校

1 公立高等学校における理由別長期欠席者数

年度	在籍者数(人)	不登校	経済的理由	病気	その他	計
平成23年度	111,399 (在籍比)	833 0.75%	26 0.02%	195 0.18%	137 0.12%	1,191
平成22年度	114,273 (在籍比)	853 0.75%	30 0.03%	338 0.30%	238 0.21%	1,459

※年間30日以上欠席した者

2 公立高等学校における不登校の状況



〈前年度との比較〉

- 人数 ~前年度に比べ、20人減少している。
- 在籍比~前年度と変わらない。

【内訳】

- 全日制 443人 (0.4%) (前年度 461人(0.4%))
- 定時制 390人 (7.3%) (前年度 392人(7.1%))

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
不登校生徒数	703	657	716	853	833
在籍比	0.59%	0.56%	0.62%	0.75%	0.75%

※年間30日以上欠席した者のうち、
主たる理由が「不登校」の者の数
※平成16年度から調査を実施

3 学年別不登校生徒数

	不登校生徒数					
	平成23年度			平成22年度		
	人数	在籍比	構成比	人数	在籍比	構成比
第1学年	297人	1.00%	35.7%	342	0.98%	40.1%
第2学年	152人	0.48%	18.2%	183	0.55%	21.5%
第3学年	49人	0.16%	5.9%	68	0.20%	8.0%
第4学年	9人	1.44%	1.1%	8	1.34%	0.9%
単位制	326人	1.78%	39.1%	252	2.40%	29.5%

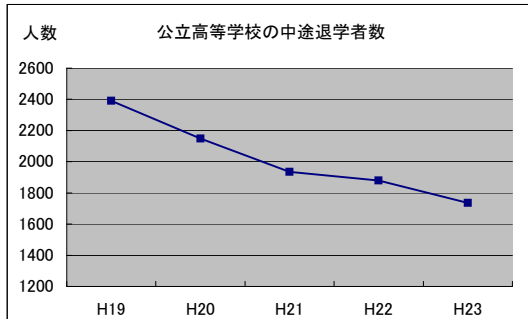
4 不登校となったきっかけと考えられる状況(19項目から考えられるものをすべて選び回答。)

順位	不登校となったきっかけと考えられる状況					
	平成23年度			平成22年度		
①	本人に係る状況	無気力	26.9%	本人に係る状況	無気力	23.3%
②	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	25.6%	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	19.0%
③	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	13.4%	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	11.5%
④	学校に係る状況	学業の不振	12.1%	本人に係る状況	あそび・非行	10.2%
⑤	本人に係る状況	意図的な拒否	11.8%	本人に係る状況	病気による欠席	7.9%
⑥	本人に係る状況	あそび・非行	9.8%	本人に係る状況	意図的な拒否	6.8%
⑦	本人に係る状況	病気による欠席	9.4%	学校に係る状況	学業の不振	5.5%
⑧	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	5.6%	学校に係る状況	進路にかかる不安	4.9%
⑧	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	5.6%	学校に係る状況	入学、転編入学、進級時の不適応	4.1%
⑩	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	4.0%	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	4.0%
⑪	学校に係る状況	進路にかかる不安	3.2%	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	3.3%
⑫	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.8%	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	3.2%
⑬	その他		2.3%	家庭に係る状況	家庭内の不和	2.6%
⑭	不明		1.6%	その他		2.2%
⑮	本人に係る状況	病気による欠席、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否のいずれにも該当しない、本人に関わる問題	1.4%	不明		1.6%
⑯	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等をめぐる問題	1.3%	学校に係る状況	いじめ	1.4%
⑰	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	0.8%	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	1.2%
⑰	学校に係る状況	学校のきまり等をめぐる問題	0.8%	学校に係る状況	クラブ活動、部活動等をめぐる問題	0.6%
⑲	学校に係る状況	いじめ	0.2%	学校に係る状況	教職員との関係をめぐる問題	0.2%

(注)・平成22年度調査から、区分が「学校に係る状況」、「家庭に係る状況」、「本人に係る状況」、「その他」、「不明」の5つの分類となった。

公立高等学校の中途退学

1 公立高等学校における中途退学の状況



〈経年変化〉

過去8年間、中途退学者数は減少傾向が続いている。
なお、在籍比については、昨年度と同数であった。

〈前年度との比較〉

- 人数 ~前年度に比べ、145人減少している。
- 在籍比~前年度と変わらない。

【内訳】

全日制 1,169人 (1.1%) (前年度1,299人 (1.2%))
定時制 566人 (10.5%) (前年度 581人 (11.0%))

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
中途退学者	2,390	2,149	1,934	1,880	1,735
中途退学率	2.0	1.8	1.7	1.6	1.6

2 学年別中途退学者数

	中途退学者数					
	平成23年度			平成22年度		
	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比
第1学年	892人	3.0%	51.4%	1,036人	3.0%	55.1%
第2学年	449人	1.4%	25.9%	535人	1.6%	28.5%
第3学年	171人	0.6%	9.9%	191人	0.6%	10.2%
第4学年	16人	2.5%	0.9%	15人	2.5%	0.8%
単位制	207人	1.1%	11.9%	103人	1.0%	5.5%

3 中途退学となった理由 (8項目の主たる理由から選び回答)

順位	中途退学となった理由			
	平成23年度		平成22年度	
①	学校生活・学業不適応	40.2%	進路変更	39.8%
②	進路変更	38.6%	学校生活・学業不適応	39.8%
③	問題行動等	6.2%	家庭の事情	5.1%
④	学業不振	4.9%	学業不振	4.7%
⑤	病気が死亡	4.3%	問題行動等	4.3%
⑥	家庭の事情	3.1%	病気が死亡	3.7%
⑦	その他の理由	2.0%	その他の理由	1.5%
⑧	経済的理由	0.7%	経済的理由	1.1%